Def. Doc.# 2533

訂正

陸護日文書二五三三号

誤　長　（ビゴット宣誓供述書）

頁	行	正	誤
一	一	ラズスレーエ兵旅團長	ラブスレーエ兵旅團長
一	四六七十六十八	武藤將軍	武藤大將
二	二三六	同	同

私事、英国サリー州エワースのラプスレー王室旅団長であり、殊勲章拝受者、バス勲等最下級者である陸軍少将フランシス、スタイワート、ギルデロイ、ヒゴットはまず正式に宣誓し供述する

私は一九三八年上海で始めて武藤（章）大将に会つた。私は在上海の日英両當局間の友好関係を根ふかに至つた或問題の解決のため英国の駐支大使の要請に基き且つは日英両国政府の當局を得て東京から上海へ派遣されたのであつた、當時武藤大将は総司令官畑大将の幕僚であり同大将の指揮下でその方面に於ける日英関係の上に觀るべき改善を齎すにあつかつて力があつた

其後一九三九年の夏には武藤大将は天津の緊急問題を討議、解決せんとして召集された会議に参加するため東京へやつて來た北支日本陸軍代表国の長であつた

今議開催の場所に関する軍當局の意見は却下されたが一一軍當局の希望は会議は天津で開かるべしといふのであつたが総理大臣（平沼男）は東京説を主張した一一軍の當局者は之を止むを得ずとし会議を成功させるために最善を盡した。武藤大将は屢々私に軍の意向即ち軍の主眼とするところは軍隊の安全にあり、会議に出てゐる經済問題もこの軍隊の安全といふことに関係があるのだといふことを説明した。武藤大将は一日も

Exh ✠

早く自分の公務に帰りたがつてゐた。そのため会議が早急に且つ成功裡に終ることを望んでゐた。私は武藤大将の態度を英国大使に報告した。そして私が武藤大将とお別れの会見をした時彼は「会議の成功を希望する」旨表明したのだが其の会見記は一九三九年八月十四日頃のロンドンタイムスに掲載された

一軍人として他の軍人を云々するに當り私は武藤大将に敬服し且信頼を置いた

エフ、エス、ビゴット（署名）

Doc Doc ✠2533

右は太一九四七年七月二十四日英国サリー州グランレイに於て私の面前で宣誓し署名されたものである

ベイシルシー、ダブリユー、ハート（署名）

宣誓監督官